

人生雑感

智恵子のちから

旅の行雄

昔私の祖母の話だが智恵子が鞍石山方面に向かつて歩く姿を見たと言っている。その頃は部落の花見に祖父の代わり父が出席する。歳が若かった。徳利で米屋に酒（花霞）を買に行ったり貧乏そうだが恵子の生家は盛元保存の事業に入り当時の菅沢町長が恵子の生家復元の事業に入る話がある。恵子の喉が暑く、私の同級生の二階堂君が住んでいた。夏の暑い日の午後一寸遊びに行っていた。その井戸水が昔使った酒だと言った。井戸は引き水で、南屋敷方面に元井戸があると聞く。井戸には金魚が二匹泳いでいた。柄杓は両手ではないと汲めない程の直径一尺位もある大きなものと、神社などにある清めの柄杓があり、それで飲んだ。智恵子の生家保存工事がほぼ終わる頃、当時レモン会長の伊藤さんと中を見に行ったことがある。その後伊藤会長と幼稚園の菅野さんと東京の光太郎の会に出席したり、夢くらぶの日帰り研修旅行で岩手の花巻山荘とか、三・一の津波で倒れた巨大石碑とか、近くの小学校などを見学した時は

昔の油井小学校を思い出した。あの地域の学校を思い出す造り方が見られ、想われた。その後、安んじな生活。どれもこれみ智恵子のちからと



福島弁で智恵子の講演受けて

森和美

平成十六年暮れも押し詰まったころ、担当デレクターから「森さん、福島弁で『智恵子と光太郎』の講演オフア―が来てますが、大変だったら断つてもいいですよ！」

折角のご指名を断る筈がありません。そう言っても通常の講演とは訳が違う。実存の人物を語ることはほど難しいものはありません。

ノルマ九十分の台本作り、オール福島弁という作業は何時よりも何倍もの時間とのエネルギーが必須。覚悟を決めて本屋へ駆け込み、まずは高村光太郎著『智恵子抄』をはじめ、智恵子に関する本を数冊と、津村節子著『智恵子飛ぶ』を調達して帰宅。全ての資料を三回読み返し、集中して私なりに組み立てて行きました。「これは私のやるべき仕事」と自分に言い聞かせると、私のハートは完全に火がつき、苦労は快感に変わってゆきました。後日聞くと、苦勞によりますと、当時地元では未だ盛り上がり、乏しく思索の末、「森和美に福島弁でやってもらえば、地元にも受け入れ易くなるのではないか？」との提案があったと伺いました。

台本造りの過程で心に強く残るシーンがありません。智恵子が精神を病んでから盛んに福島弁を使

うようになつたといふのです。
ある時光太郎が外出先で聞き覚えのある声には
つとして近寄つてみると、智恵子が唯一人神社の
境内で着物の裾を引きずり、福島弁で誰かを叱り
つけるように大声で怒鳴つてゐる姿に光太郎は愕然
としたとありました。

それだけ智恵子は故郷を愛していたのではない
かと勝手に推測して感動したものです。

生涯光太郎を愛し、愛され、最後は光太郎に褒
めてもらいたくて、光太郎だけを見つめて『切り
絵』に打ち込んだからこそ、とうとう光太郎を感
動させた秀作の数々が生まれたのではないでしょ
うか。智恵子に乾杯！



不思議な力

本多 真紀

「智恵子のまち夢くらぶ」発会十周年おめでとうございます。仙台文学館で企画展「高村光太郎・智恵子展」を担当したご縁で、二本松でお話させていただいたのが二〇〇七年。この七年の間に、東日本大震災・福島第一原発の事故という大きな出来事がありました。が、「夢くらぶ」の皆様が旺盛に活動続けていらつしやること、とても頼もしく感じております。

私事で恐縮ですが、現在は文学から移動し、文学作品に接する時間は少なくなっていました。学作品でも、親しんだ作品の一節やことばを折にふれて想い出すことがあります。震災のとき、故郷・福島を思うと光太郎の「樹下の二人」「あどけない話」の詩句がおのずから心に浮かびました。ことばの力、文学の力をあらためて実感しました。田晶子さんと斉藤芳生さんの短歌に次のような作品があります。

五回目の引越しは高村智恵子の生家を地図に載せ
たる街へ

駒田晶子（歌集『銀河の水』より）

華濁音濃く残しいる女子校に高村智恵子も我も通
いき

より 斉藤芳生（歌集『花水木を待つ』）

それらは、この私でも智恵子の後輩（高校の）の
しこれだといひ思ひがあるからかな、と不遜にも
考えたりかしています。勝手ではあります。が、智
子と何らかの形でつながっていると言ひ意識が、
不思議な力になつて自分自身に作用しているよう
な気がしてなりません。

いま、智恵子の故郷での「夢くらぶ」の活動は
ますます大事なものとなつて活躍されまことお祈
りしております。



ほんとうの空

金田 和枝

十一月四日、ホームのスタッフの方々にお世話になって、菊人形を見せていただきました。以前にくらべると、人形の場合が少ないのが残念でした。でも・・・、それでも光太郎と智恵子は仲良く菊人形としておさまっていました。

あれが阿多々羅山

あの光るのが阿武隈川

ついで口をついて出てきたのがあの「樹下の二人」の一節でした。のー安達太良山の峯、光るさざ波の阿武隈川が私の脳裏にうかんできました。六月十一日に突然入院、完治しないままホームへの移動と内心「絶望」にも似た思いで過ごしてきた私でしたが、車椅子に腰かけて外出するようになった。その外気を深く吸い込んだ。東京での智恵子さんは、体調を崩すと思わず安達太良山の上でひるがる。ほんとうの空の大きさを吸いに帰って来たひと

言います。安達太良山の峯々、阿武隈の流れ、そしてあの緑が、かもし出すこの空気こそ、癒やしの空気なのではないか。（新市民歌）にも先ず、安達太良の峯、阿武隈の流れからはじまり「ほんとうの空がここにある」とむすんでいます。先日、郡山に家を新築した夫婦のまねきでその家を見せてもらいました。木の香かおる新しい家を見せられてくれたのは、二人が、なによりもほのぼのとした家内を見せてくれたのは、二階の窓を開けると、はるかに見える安達太良山の峯が広がっているのが見える。二人は、あのほんとうの空が広がっているのが見える。安達太良山・・・と声を高くとなえるように安達太良山を指し「あれが安達太良山・・・」と声を高くとなえるように



夢くらぶと巴里

モンデンモモ

訪ねて私の道が始まり、初めて智恵子さんの生家を
もあって私のルーツへの旅立ち。私の心の中はア
ツトランダムに訪れるのです。光太郎さんの言葉は種
明かしをして下さいます。光太郎さんの中、毎回は
何度も繰り返し返して歌ったり語ったりする中で、
新しい息吹を感じます。智恵子抄と出会って二〇
年。弟を亡くした哀しみから手にした智恵子抄。
哀しみが痛みから共感になり優しさになっていく。
その彩りは時と共に洗われていくようにした。そ
して、夢くらぶさんと巴里へ。私は絶対に夢くら
ぶさんと巴里へ行くことを決めていました。そこ
に大きな鍵が必ずある。

ノートルダムを見上げた光太郎さん。

ロダンを肌と感じた光太郎さん。

骨太の歴史を守らなくてはいけない、巴里にノ
ックアウトされたに違いはない光太郎さん。巴里に
巴里には全く違う時間軸があるに違いないと想
私の予感的中しました。ゴッホもロダンも、想
ちろん光太郎さんも、勿論私達も同じ時空に存在

して歴史をしました。
開き始めました。に蓋をしていた私は、新たな扉を
るか。巴里は私の夢くらぶ十周年本当におめでとう
すごいです。私はこれからの心に誓いました。
時よ！進みます。お前はあまりに美しい！！
しよ！お前はあまりに美しい！！



智恵子のまち夢くらぶ十周年によせて

宮川 菊佳

智恵子のまち夢くらぶ発会十周年おめでとうございませう。十年ひと口と申し上げても、会長さんをはじめとして、会員、皆様の大変な努力の賜物かと存じます。

そしてなにより、皆さまのこの地の自然と文化を愛し、この地に根付いている想いが智恵子、光太郎の存在を今でも感じさせ、その素晴らしい芸術を、現代でも息づかせていると思います。

安達太良山の眼下に広がる自然豊かな地を眺めると、智恵子の純粹でひたむきな愛が自然と伝わってまいります。そして光太郎の真摯な気持ちと相まって、智恵子、光太郎、二人の素晴らしい物語が作られていったのでしよう。そしてこの素晴らしい自然の地を輝かせてくれているものと感じます。

高村光太郎の詩に、「樹下の二人」があります。はじめの「あれが安達太良山、あの光るのが阿武隈川」の一節だけで、これほどこの地の自然の素晴らしさを描いているものはありません。余分な比喩などいらぬのです。

さて、十年という一つの節目に、これから、この大地において、自然と文化が融合し時間もゆ

つくりと流れ、ときには停止し、この豊かな空間を生きみ出す、そういう中で活動を展開してくださいます。過去、現在、未来、すべての流れが一体化し、全ての縦軸、横軸が一つの空間の流れる存在化し、ればこそ、存在する芸術ではないかと思ひます。最後、智恵子のまち夢くらぶの、ますますの活躍をお祈り致します。



安達太良山に魅せられて

坂本 富江

安達太良の 嶺^ねに伏す鹿猪^{しし}の ありつつも

我^{あれ}は至らむ 寝処^{ねど}に去りそめ

(万葉集) より

二本松市を訪れることあまたあれど、安達太良山の麓は岳温泉どまりであつた。一度は登つてみたいの一声に、東京からかけつけてくれた助つて人のエスコートで悲願達成は、昨年の『レモン忌』の翌日であつた。台風一過で雲一つない快晴は、まるで恵子さんからの最高のプレゼントのようにであつた。山梨育ちなのに登山に無縁だった私にとつて標高千七百メートルの地に立つことは生涯の快挙であつた。頂上にひろがる空は無限に広々うぶしい程の青さであつた。多くの人はこの「ほろ太良山が三首も詠まれていた。冒頭の詩を含め安達太良の詩であることに注目したい。一四〇〇年の悠久の年を終る『智恵子抄』は安達太良山の上の”ほんとの空”を詠いあげている。安達太良山の上的に一方は愛しき人を待ち、一方は愛しき人を偲ぶ。まさにここ二本松は誇るべき歴史的、文化的にも

純愛の（ロマン）の地である。縁あつて恐れ多くも「高村智恵子の生涯」を小学生対象に紙芝居を創らせて戴き、今秋、油井小学校と智恵子純愛通記念碑第六回建立祭で実演させていた第一人は喜び入^{いり}である。高村光太郎研究の第一人者北川太一氏は「優れたもの、見事な物が常に残る」とは限らない。どんなに優れたもの、大切なものでも伝えられない。努力をしなければ必ず非常に滅びる・・・」と処々に語られている。今年、光太郎・智恵子さん結婚一〇〇年。『道程』が世に出て一〇〇年。阿武隈川のゆるやかな流れのように、脈々と受け継がれんことを祈念いたします。智恵子のまち夢く



「会員の皆様方との交流活動を大切に」

油井小学校校長 伊藤 雅裕

智恵子のまち夢くらぶが発会し、十周年を迎えられましたこと、まことにおめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。代表の熊谷健一様はじめ会員の皆様方には、これまでの会運営のご尽力とご労苦に心より感謝と敬意を表します。

熊谷健一様には、本校の四年生の総合的な学習の時間「高村智恵子について調べよう」の学習に、ゲストティーチャーとしてお出で頂きました。高村智恵子生誕の地域巡りの活動を通して子供たちに変わりやすく高村智恵子の生涯を教えていただきありがとうございます。ここより感謝申し上げます。

また、九月二二日（月）には、高村光太郎研究会員智恵子の里レモン会会員であり、「スケッチで訪ねる智恵子抄の旅」高村智恵子五〇年の足跡の本を出版されるなど、長年にわたり高村智恵子をお研究されている坂本富江さんが油井小で手作り紙芝居を行ってくださいました。

私がレモン会の折に「坂本さんの本の中にある挿絵のような絵で、小学生にもわかる智恵子さん

の生涯を描かれた本があるといいのですが．．．」と申し上げたところ、「高村智恵子の生涯」と言う小学生向けの紙芝居を作成してくださいました。坂本さんは何ヶ月にもわたる構想と制作期間を経て智恵子さんの紙芝居を完成されました。当日は、坂本さんからの、これまで訪れた高村智恵子のゆかりの地の写真の紹介、ご自身による紙芝居を通して、子どもたちに変わりやすく高村智恵子の生涯について教えていただきました。坂本富江さんの子どもたちのためにという熱意とご努力に感動しました。

会員の皆様方にはぜひ今後、高村智恵子の母校で学ぶ子どもたちにも、高村智恵子の生涯について様々な機会を通して様々な方法でわかりやすく教えていただければ幸いです。

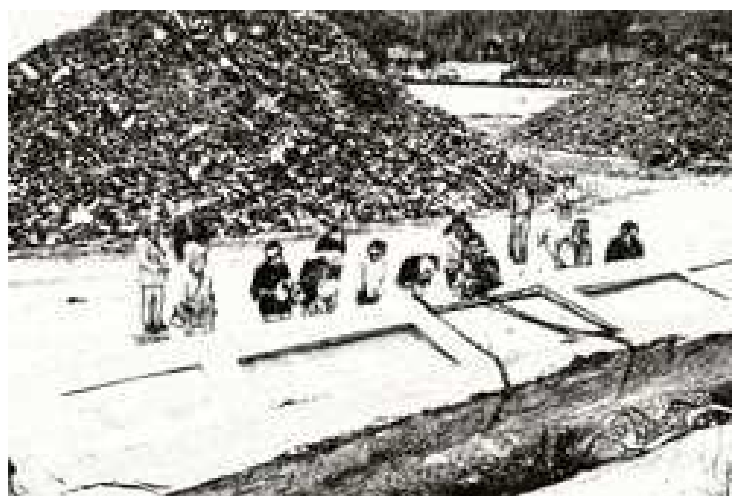
熊谷健一様はじめ会員の皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い致します。



津波被災地研修と福島原発

日高 計子

の今年の研修旅行は津波被災地宮城県女川町と杜
 都仙台でした。私は女川町に光太郎文学碑があ
 ることを知りませんでした。光太郎は昭和六年三陸
 取材旅行で女川を訪れ、数々の作品を残してしま
 す。それがあの震災で流され、また顕彰活動をし
 ていた方々も津波の犠牲になり、また彰活動をし
 詩碑が女川海岸に横たわっており、私たちはその
 詩碑に花を手向け黙祷、記念撮影。
 福島県は今、放射能と戦っています。中間貯蔵施
 設場所について論議されています。私の町内でも遅
 い除染作業が開始され、我が家の狭い庭でも五セ
 ンチ削土、一時保管に夫が庭に穴を掘り埋めまし
 た。私は「日高古墳」と名付けました。
 だろ。三十年の歳月を経て本当に解除する日が来
 るのか。帰りたくても帰れない。里を離れての
 いる方々、今まさに復興再生をはかっている宮城
 県女川町、同じ震災でありながら考えさせられる
 研修旅行でした。



ひとりごと

齊藤 恭子

明治四十年代に一度しかない人生だからと新しい生き方を選んで智恵子でしたが、たび体調を崩してふるさとに帰って来ましたが、そこには、元氣を取り戻す多くのものがありました。倒産して、父が死去し、昭和四年には実家の酒店が恵子の絶望感はいかばかりであつたかは察するにあまりありません。安達太良山に毎日見えている青い空がほんとの空だと言っている、美しい風景を見る、今日も安達太良山麓には、その美しい風景を見る、今日も出ます。智恵子・光太郎達も鞍山山からこの美しい安達太良山の景色を眺めながら、おもしろい話などして、うに思えたりしています。とき折り、私はその



「発足十周年に寄せて」

大石 裕子

「智恵子のまち夢くらぶ」十周年誠にめでと
うございます。青空ウォーク、来成人式を迎えるという智恵子
にさびしさを感ずる今日この頃です。共に参加出来たのはこれきりですが、忘れるこ
とができません。大切な方々より教わったものや講演、映画上映鑑
さんの講師の方々の歌声、シンポジウム、映画上映鑑
賞、岩代エリア名木巡りなど、様々な行事に参加
することができ、より深く「智恵子と光太郎」の
世界を探求することができました。純愛通りという愛称記念碑においての歌やハ
ーモニカ演奏、トランペット、朗読なども忘れる
ことができません。特に今年初めて「女川仙台」
旅行においでません。3・1以降の人々が触れることができま
した。前へ歩み出している様子に触れることができま
した。千年後の命を守ろう」と中学生たちが呼びかけ
た。かねてきた石碑をみて感激しました。「きぼうのけ

私には休みが取れたので、「高村山荘記念館」へ
も行きました。館内に展示されたもので、「高村山荘記念館」へ
の山荘にほんの薄暗くあてた光のバス停まで歩いたの
写真に心をうばわれ、また、帰路バス停まで歩いたの
写真を見学する事ができ、宮静枝様といっしょに写
ていた写真の事が足ることをのぼし、「第四回企画展」
を見て学べる原稿に触れることのできた交流の足跡で
あると紙や原稿に手がけることのできたことも忘れ
られない。人生に味わすといくことを望み、地元のか
息の長い活動の一助とならることを祈ります。



「道程」 出版百周年記念と

書作のこと

大野 正美

夢くらぶは詩集「道程」出版百周年及び光太郎、智恵子結婚百周年の記念行事をいくつか開催された。私自身は、この記念を書作品を揮毫することです。恒例となつた青空ウオークに参加したが、要所々々で光太郎の詩を朗読者数名の方々が行った。私に指名があり、すでに道程を書作していたので引き受けた。稲荷八幡神社の境内に着いて、私の番が来た。皆に向かつて、大声でさけぶように、書作した時のことを思いうかべながら読み上げた。この作品「道程」出版百周年記念と題して私の所属する書展と、その後秋の白河市総合美術展に招待作品として陳列し、また純愛コンサート開催の会場通路に掲げて、入場者に見て頂けた。多くの方々に百周年記念のことに気付いて貰えたら幸いです。私も夢くらぶと共に意義ある百周年を味わった。



山莊の光太郎

熊谷 寅一

戦後高村光太郎が妻智恵子死去の後、岩手県の花巻山莊に一人で暮らしました。どんな環境の処か、と一度行つて見たいたかねがね思つて居りました。加へ、一昨年智恵子のまち夢くらぶの研修旅行に参加して、念願の山莊の地を訪れました。冬には大雪が積もり、北風が寒い森林に囲まれ、大變越冬には厳しかつた。唯一の暖を取り、井戸も風な農家造りで、囲炉裏で生活で暮らしました。掘り、七年も自給自足の生活で暮らしました。村の社会にも、子供の教育や町の建設と色々、多岐に渡り、静かな月夜等に、供物や御酒を供え、十五夜の晩や、達のお酒を入れた、名月の下、遙か遠い東京や福島、の、一つの間に、かこない思ひ出を走馬灯の様に回想し、光太郎は、智恵子さんと何時も離れられな胸の内、旅行で居たのだと思ひました。忘れられな胸の内、旅行で居たのだと思ひました。



智恵子のまち夢くらぶ

発会十周年に寄せて

茅原 洋子

智恵子のまち夢くらぶが誕生して十年というこ
さえ知らずおりました。向。退職後、いろいろな条件が自分
た。その一つが、自分のために使っている時間と
で。その一つが、自分のために使っている時間と
芸術魂に、深い知識をもつて、探究心に裏付け
け。知られた、深い知識をもつて、探究心に裏付け
何。恵子への興味、私を呼び起こして、知れたいと思
智恵子の興味が、心をくみ、恵子の人物について
う。心を揺動かし、おろそかにせず、恵子の人物について
殊。更に感謝し、おろそかにせず、恵子の人物について
いと。関心をもち、おろそかにせず、恵子の人物について
こ。とができるようになれた。自分、恵子、恵子の人物について
ます。さらに、光太郎の講座として、光太郎の講座も魅力が一
杯。で、光太郎の講座として、光太郎の講座も魅力が一
恵子抄の講義は、充実し、勉強の自分、と集。智
え。興味、勝る先生方も、解説、自分、と集。智
の。心に、ついで、先生方も、解説、自分、と集。智
ると。いう具合で、何とも、恥ずかしい、学び、方、で、心、を、知
と。反省し、きりの、現在、であります。

魂の波、最後、夢、敬、意、と、謝、の、真、摯、に、献、身的、に、活動、さ
思。います。下。に。生。き。抜。いた。こ。は。誇。らし。い。こ。と。
れ。る。姿。に。夢。敬。意。と。謝。の。真。摯。に。献。身的。に。活動。さ
い。から。智。恵。子。も。つ。と。目。の。届。く。こ。ろ。に。展。示。し。ら
関。連。の。要。が。あ。る。の。で。は。な。い。と。思。う。智。恵。子。と。光。太。郎。
の。こ。と。に。な。り。ま。し。た。深。く。知。れ。ば。、。智。恵。子。と。光。太。郎。
う。よ。う。に。な。り。ま。し。た。深。く。知。れ。ば。、。智。恵。子。と。光。太。郎。
い。会。員。の。皆。様。方。、。こ。れ。か。ら。も。ど。う。ぞ。よ。ろ。し。く。お。願



夢くらぶ事業の心に残った思い出

木村 純子

今年、結婚百周年、詩集「道程」出版百周年、智恵子光太郎の記念事業が、五回にわたり開催されました。私、その中で感動のひろばに残った事を文にしました。福島民報「みんなの動し」に投稿しました。五月二十三日、「朗読とギターの感動ハート」に採用され掲載されました。少しかつた夢くらぶの活動に貢献出来たかと思ひ、うれしかったです。そして多くの福島県民の方に「夢くらぶ」の活動を通して、解してもらいたいと思います。

「女川と仙台の旅」研修旅行も投稿したのですが、不採用でした。女川の学生達が「〇〇円募金で、千万円を集め、自分達で「いのちの石碑」二十一基を建設しよう」と頑張っている姿を紹介したもので、下は、あぶないです」という印で、裏に「あいたくて、心に、あえなくて、あいたくて、涙をさそわれて、また、第六回智恵子純愛通り記念碑建立祭プレミアムで、光太郎・智恵子純愛を絵に描いて紙芝居にし、坂本富江さんに私が咲かせた「グロキシニア」

の花を見せたところ、写真に収めて持ち帰り絵に描いて送った下さり、宝物に成りました。

また、宮城の朝日新聞に「女川・光太郎の花束と涙」という題で、福島から智恵子顕彰のメーバールームの記者が持参した花を手向けた事が掲載されました。記者小野智美さんがその新聞を送った下さり、感謝の言葉が書かれてあり、とてもうれしかったです。

音楽で紡ぐ純愛コンサートは、「長屋伸浩」さんの力強い演奏や懐かしい曲に魅了され、感激致しました。モンデンモモさんの語りかける様な歌い方も声量があり、何度聞いても素晴らしいです。今年、私は私にとりまして、「夢くらぶ」に参加しました。ありがたい感動の思い出に残る「一年」に成りました。



野里 安雄

致しえない。何処かで大変お世話になった方なの
に、思い出せない。親戚で無いのは確かだがかなり親
しく知っている人。旅が終わり鞆を放り出してや
つと思ひ出した。仕事でも夜の宴会でも個人的に
利用したことのある女将さんだった。

今年のしやべり場も大変有意義だった。このよ
うな場合は苦手だが、中学生が意見の言える人にな
りたと言った。そして伝統と歴史のあることを
将来も守り伝えたいと言つてくれた。来賓の方々
も、将来も智恵子抄を更に読み直し、代表と共に
協力する事を誓つてくれた。会員一般の方もつ
と智恵子抄は勿論光太郎を更に勉強し、孫や子へ
伝えたいと言つてくれた。

確かに私達の希望通りには事は運ばないかも知
れないが、継続は力、やがては智恵子光太郎ファ
ンがもつと増えるよう、そしてこの町が更に良く
なるよう、活動して行きたいと思う。



智恵子のまち夢くらぶ この一年

菅野 ミチ子

詩集「道程」出版百周年。
高村光太郎・智恵子結婚百周年。
智恵子のまち夢くらぶ発会十周年。

この三つの記念事業が今年のテーマでした。企画会議の時、本心、こんなにたくさんの方のテーマを立てて、本当にうまく実行出来るのだろうか？と不安がよぎりました。

「僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る」道程の詩の如く、熊谷代表の企画案を皆で検討し、一つひとつ協力して実行してきました。

「好きです 智恵子青空ウォーク 桜章」を皮切りに、桜満開の中で実行できました。「朗読とギター」で綴る智恵子と光太郎「の道程にも感動。」「建立祭」では、小中学生の皆さんが、朗読に参加して頂いたことに感謝。日本ではじめて智恵子抄の紙芝居を作ってくださった坂本富江さんにも感謝でした。

女川の研修旅行では、震災後の爪痕に涙し、ここでも復興に前向きに取り組む被災地の皆さんの姿を通して、沢山のことを学んで参りました。
「音楽で紡ぐ純愛コンサート」では、Nobyさんのトランペット、モンデンモモさんの公演の司

会進行を務めさせていただきました。緊張してドキドキでしたが、舞台裏で働く「音響さん」や「照明さん」の働きを拝見し、沢山学ばせていただきました。
「皆で語る「智恵子抄」しゃべり場」では、人のみなさんのしっかりと考えた考え方に接し、自分を反省しました。
二年前から企画していた「パリ研修旅行」にも夢ふくらませ、パリに関する本も購入して備えてきました。が、十三時間のフライトは無理！と、個人的な理由から断念せざるを得ませんでした。熊谷代表の「パリ見聞録」を一気に読みました。私も一緒に旅したような思いになりました。
この一年を振り返りますと、智恵子のまち夢くらぶ十年間の中で一番忙しい一年だったように思います。心から感謝申し上げます。



松本 美男

調子が良いときというのは、本当に注意しないと
いけない事と思う。上司に頭を下げたとき、自
分の「魂」がスーッと抜けてゆき、眼の前が、真
つ暗となり、何とも言えない心地良さがあ
つた。自分の人生はこれで終わったのだと思
が、まだ死なないで生きてゐる。でもぬけの
で、思考する頭もなく、財力もないし、諦め、
に出る人を信じることもできなくなつていた。
みだけが残る結果となつていた。今は、安達太
山、吾妻連峰を眺めながら仕事が出来る喜びを
みしめてゐる自分が、ここにある。



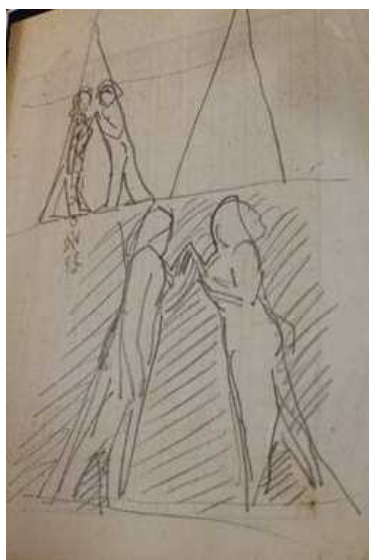
祝 智恵子のまち夢くらぶ発会十周年

“八〇才” 第三の人生から智恵子抄と 高村光太郎の文学と芸術にふれる

星 達夫

し、教員生活三十九年を経験して六〇才で定年退職
第二の人生を出発した。
送りたいたいと思ひ、何時までも若さをもった人生を
をし、若さを保つようになつた。また若い人た
ちとできるだけ交流することにした。そして、日
常に妨げることが生じた時があつても、家族の協
力を得て長く続けるよう努力してゐる。お陰で始
めたことは、やり通してゐる。ダイビング、夏は
サーフィン、相馬野馬追の騎馬武者となつて若さ
溢れる活動をして二十年。
ところが二十三年三月十一日に発生した東日本
大震災と原発事故で、サーフィンと騎馬武者は残
念だができなくなつてしまった。
その頃新聞に「智恵子抄発刊七十周年記念行事」
に「智恵子ゆかりの地」群馬県へ、「智恵子のま
ち夢くらぶ」(会長 熊谷健一氏)主催の研修視
察旅行の参加募集があつたので妻と二人で参加さ
せていただいた。

恵子 これ「まち夢くらぶ」となつて、素晴らしい「智
安堵してゐる。その間、数々の研修会、行事、研
修視察旅行に参加させていただいて、智恵子と光
太郎の文学と芸術、そして二人の人生について
ふれさせていただいてゐる。
の會長さんご夫妻をはじめとして會員のみなさん
と心に強く念じてゐる。
て、非常の時に担任してゐた「宮沢賢治」につい
賢治、三春の会」の會員にもなつて勉強会に参加
し、八〇才になつて新たに始めた「剣舞」で「二本松
少年隊」の曲に挑戦し、智恵子抄研究の一助にし
たいと思つてゐる。



智恵子のまち夢くらぶ発会十周年
まことにおめでとうございます。

新宿発あづさ二号の旅

星 玲子

三度目の上高地をめざして車中の人となった。心はずでに信濃路をかけめぐる。そんな折、ひとつの新聞記事が目にとまる。「智恵子のまち夢くらぶ」の紙面である。主人に話して「夢くらぶ」代表の熊谷健一氏へお電話をしてもらい、二本松の会場に行った。そこは「高村光太郎と智恵子」に憧憬の深い会員会友の集まりで、身の置きどころの無い緊張感が私を襲った。安達太良山は家族で登った事がある。阿武隈川、智恵子抄の歌は口ずさんだ事がある。ただそれだけの私。熊谷代表、父上様、奥様、そして会員会友の皆さまのなごやかな雰囲気の中での学習。智恵子光太郎をこんなに掘り下げて勉強している熊谷代表、の情熱に感動し、人生は出会いによって広がる事を実感した。会員の方の親しみのあるお声かけにより、自分の生き方を軌道修正しようと思った。「智恵子講座」は次々と進み「モンデンモモ記念コンサート」菅原美智子アナの智恵子抄全編朗読と宮川氏の「ギター演奏」、九十九里浜の「千鳥と遊ぶ智恵子」

の一節チツチツは今も耳にのこる。の長屋伸浩氏の「夜空のトラペット」あの音色を十和田湖畔の裸像のあたりで聴いてみたい。智恵子光太郎の勉強会で、上高地で婚約、智恵子さんが光太郎さんを訪ねて清水屋ホテルに辿り着いた一途な若き情熱、壮大なドラマがあった事を知った。清水屋ホテルも二〇一四年二月「上高地ルミエスタホテル」と名称が変更になった。大正池に雨が降る。「マリンバ」の演奏を観て居るような情景だ。霧のカーテンがブラボーの歓声に包まれる。梓川の左岸を田代池、明神池と歩く「河童橋からの奥穂高の眺望」と梓川の清流は何度訪れても心をとらえて離さない。人と上新聞で阿武隈川の渡し舟がなくなると知り、主とも上川崎に行つて女船頭さんをお願いして乗せの野菊の墓に行つた事、八才五ヶ月、記憶もセピア色となる。



女船頭さんと

熊谷さつき

と同じ風景が今も存在しているのにびつくりしました。部屋に入ると日本の浮世絵が壁などに飾られていました。また、アトリエにはまだ仕上がりがない絵がそのままになっていました。古い物を大事にする心にふれた様な気がしました。

パリの人は今も古い建物を大事に利用していることが素晴らしいことだと思いました。それがパリの人の誇りだからこそ、世界の人達が集まるのでしょうか。

私達も古き宝物を大事にする心を見習って行かなくてはと思います。夢のような七泊八日、七人のパリ研修を何事も無く終えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。



「道程」に想う

熊谷 健一

高村光太郎の「道程」は、大正三年十二月二十日、土砂降りの中、
 挙げた。只、美人の合意で婚姻届を入籍し、
 あった。只、美人の合意で婚姻届を入籍し、
 分過ぎる。程覚悟して、いた。安易な道ではない。
 の航海に出た。悟して、いた。安易な道ではない。
 前高村光太郎の「道程」は、大正三年十二月二十日、
 梓の十月に出版された。極度の破天荒な生活の中、
 概念を打ち破る。制作の進め、順々、並べた。綴り、
 き記念した。作品の制作の進め、順々、並べた。綴り、
 ような詩集。内面、光太郎は、順々、並べた。綴り、
 シと言った。感、進め、順々、並べた。綴り、
 であった。道の、感、進め、順々、並べた。綴り、
 な詩集。道の、感、進め、順々、並べた。綴り、
 名ない。道の、感、進め、順々、並べた。綴り、
 た初行の、感、進め、順々、並べた。綴り、
 光太郎の「道程」は、大正三年十二月二十日、
 詩集。道の、感、進め、順々、並べた。綴り、
 葉だけ。道の、感、進め、順々、並べた。綴り、

なものをそぎ落とし、骨髄だけの彫刻となったか
 のようだ。光太郎の詩精神そのものように。
 改めて「道程」を読んでみる。

僕の前には道はない
 僕の後ろに道は出来る

父よ、自然よ

僕を一人立ちにさせた
 僕から目を離さないで守ることをせよ

この遠い道程のため
 この遠い道程のため

凝縮した九行の詩に、光太郎の溢れる想いと強
 い決意がぎっしりと詰まって、生きている。この道程の
 は一人光太郎の詩に、光太郎の溢れる想いと強
 に共通する精神で、生きている。この道程の
 常に未知の世界を生きていく。この遠い道程のため。
 歩いて、行きたい。この遠い道程のため。

